

近代犯罪科学選集

全7巻



誇大妄想の持主、もとは「将軍」と自称その後「帝」。

クレス出版

多種多様の犯罪を科学的に考究し、社会、人間の暗部を抉る稀観（非売）資料。

近代犯罪科学選集 全7巻

第1巻	変態心理と犯罪	中村 古峽 著	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-434-5
第2巻	女性と犯罪	野添 敦義 著	定価 8,000円(税別)	ISBN978-4-87733-435-2
第3巻	殺人と性的犯罪	加藤寛二郎・荒木治義 著	定価11,000円(税別)	ISBN978-4-87733-436-9
第4巻	演劇と犯罪	飯塚友一郎 著	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-437-6
第5巻	犯罪者の心理	金子 準二 著	定価12,000円(税別)	ISBN978-4-87733-438-3
第6巻	売淫、掏摸・賭博	喜多壮一郎・尾佐竹猛 著	定価14,000円(税別)	ISBN978-4-87733-439-0
第7巻	暗殺・革命・動乱	喜多壮一郎 著	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-440-6

B 6判/上製函入/クロス装 揃定価74,000円(税別)

平成20年10月末日刊行 ISBN978-4-87733-433-8(セット) C3332

近代世相風俗誌集 全9巻

紀田順一郎 編・解説

●東京風俗志 上中下巻	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-303-7
●明治初年の世相	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-304-5
●太政官時代	定価16,000円(税別)	ISBN4-87733-305-3
●江戸と東京 風俗野史	定価12,000円(税別)	ISBN4-87733-306-1
●明治時代の風俗	定価10,000円(税別)	ISBN4-87733-307-X
●日本風俗史	定価 6,000円(税別)	ISBN4-87733-308-8
●銀座百話、銀座・築地物語絵巻	定価11,500円(税別)	ISBN4-87733-309-6
●明治詩話	定価 7,500円(税別)	ISBN4-87733-310-X
●明治少年文化史話	定価 8,000円(税別)	ISBN4-87733-311-8

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-312-6(セット)

精選社会風俗資料集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

第1巻	変態十二史 (一)
第2巻	変態十二史 (二)
第3巻	変態十二史 (三)
第4巻	変態文献叢書 (一)
第5巻	変態文献叢書 (二)
第6巻	軟派十二考
第7巻	明治性的珍聞史 ほか
第8巻	日本性的風俗辞典

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-347-9(セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロ-ナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名

 株式会社クレス出版

刊行にあたって

毎日の新聞紙上に犯罪の記事を見ない日はない。昔はこんなではなかった、いつからこんな治安の悪い国になってしまったのか。人びとの嘆きは尽きないが、はたして現在だけが最悪の時代なのだろうか。おりから、二〇〇九年六月からは裁判員制度がスタートする。われわれが、一般市民の自由や権利に深くかかわり、良識も問われる刑事事件の場に参加しなければならぬ時がやってくる。

現代と同じく昭和初年の日本は、世界恐慌の荒波をもちに受けて、波乱の世相のなかにあつた。犯罪の量的な増加にとどまらず、かつて経験する事の無かつた多様な犯罪も発生した。このような社会情勢の中で、犯罪を科学的に考究しようとの企図により『近代犯罪科学全集』（武俠社、全15巻別巻、非売品）が刊行された。当代一流の犯罪学、心理学、人間学、教育学、そして医学などの諸分野の著者・学者を動員しての集大成を目指している。変態心理と催眠心理によって犯罪を分析する中村古峽『変態心理と犯罪』、女性と犯罪の関係を性的な関係から観察した野添敦義『女性と犯罪』、また、犯罪者の増加する一因が、「社会人が犯罪者の心理について無関心である」との立場から、犯罪者の心理を社会に吹聴したいという金子準二『犯罪者の心理』など、興味尽きない論究が並んでいる。これらを含む諸篇は、現代社会においてもいささかの退色もない現代性を持ち続けていると言いうるのではないだろうか。この評価高い『近代犯罪科学全集』のなかからさらに、現在においてもなお貴重な提言である諸篇を厳選し、ここに『近代犯罪科学選集』（全7巻）として復刊する所以である。

犯罪学はもちろん、近代日本の世相、風俗、社会一般の研究、心理学、教育学等々の諸学の研究者、そして、裁判員制度導入を目前として広く一般市民のための公共図書館など、広く貢献するであろうと確信する。

第1巻 変態心理と犯罪 中村 古峽 著

変態心理篇、催眠術篇、迷信打破篇、実話篇 (昭和五年三月)

第2巻 女性と犯罪 野添 敦義 著

女性犯罪の心理、暴力殺人者としての妻、近親殺人者としての女性、婦人の強盗殺人、女性放火殺人、女性窃盗犯人、母性犯罪、残忍性の女性犯罪者、猥褻罪、不自然な行為不法なる関係、変態的本能、売淫 (昭和五年十一月)

第3巻 殺人と性的犯罪 加藤寛二郎・荒木治義 著

犯罪捜査と法医の実際、殺人論、性的犯罪 (昭和五年五月)

第4巻 演劇と犯罪 飯塚友一郎 著

演劇と犯罪との交渉如何、世界は凡て一大劇場なり、人は皆罪の子なり、演劇性犯罪、演劇の悪性と其の取締、演劇に現れた犯罪 (昭和五年九月)

第5巻 犯罪者の心理 金子 準二 著

文化、聴衆、国民性、男女、性欲、変質、思想、アルコール、精神病、身体的特徴、梅雨、夏、迷信と犯罪、騷擾、暗殺、殺人、毒殺、子供に対する犯罪、嬰兒殺し、放火、宗教的犯罪、婦人万引、売淫、自殺、心中、不良少年の心理 (昭和五年二月)

第6巻 売淫、掏摸・賭博 喜多壮一郎・尾佐竹猛 著

売淫史、売淫発生理論、売淫の裏面的観察、遊里雑考、売淫婦の生理的変態現象、売淫性的犯罪、売淫と花柳病、「白い女奴隷」—醜業婦と誘拐、世界各国の売淫警察と公娼廃止運動、男色売淫史物語、賭博篇、掏摸篇 (昭和四年十一月)

第7巻 暗殺・革命・動乱 喜多壮一郎 著

仏蘭西革命をめぐる暗殺、無政府主義思想に拠る暗殺と動乱、奴隸解放を背景とするリンコン暗殺、女性的情熱と革命運動、ロシア無政府主義運動をとりまく恐怖・追放・掠奪・スパイ・監獄、革命運動の秘密機関、ロシア革命をめぐる暗殺と虐殺、暗殺・横死の独逸革命家達、台湾動乱秘史、政治的犯罪考、階級闘争としての革命観 (昭和五年七月)

第1巻 変態心理と犯罪

変態心理現象の科学的解説

一、変態心理の種類

変態心理はその包有する範囲が頗る廣汎なものと、又その取扱はれる材料が非常に豊富で且つ珍奇なものが少なくないのとで、専門の研究者には勿論、一般世人の興味を惹くことも亦頗る多い。普通心理の方は、吾々の日常生活に於いて、餘りに屢々目に慣れ耳に熟してゐるところから、吾々はこの對して殆んど何等の感興も亦研究心もそゝられない。吾々は若し或る物が欲しいと思へば、直ぐ手を伸ばしてそれを捕へることが出来る。吾々は又面白い話を聞けば直ぐ愉快になり、厭な話を聞けば何となく不愉快になる。吾々は又色々な事實や経験を頭の中に記憶してゐて、必要な場合にはそれを憶ひ起すことが出来る。——およそ是等の現象は、考へて見れば随分微妙な吾々の心理作用に基くものであるけれども、吾々は朝夕あまりにその作用に慣れてゐる結果、別にこれに對して不思議だとか珍らしいとかいふ感じが起らぬ。寧ろ普通あたりまへのことのやうに考へてゐる。

第3巻 殺人と性的犯罪

毒 殺

一

毒とは如何なる物を言ふのかと言ふことは、前に變死の種類を述べる際に、簡単に書いて置いた通り、現今では無生物で化學的作用を人體に及ぼすものが毒物と稱せらるゝことになつて居る。毒物に就て注意しなくてはならぬのは左の諸點である。
1、性質、純粹であるか、不純であるか、によるもので毒物として純粹であれば純粹な程其作用は激烈となつて来る。
新しいか、古いか、新しい時は劇毒でも古くなると毒性が漸次減じて行くものもあるし、古くなつても少しも變らぬものもある。
用ひられた濃度はどの位であるか、濃度の如何と言ふことは身體に作用するに非常の差があるもので毒物に依つては毒作用が極めて輕微になつて来る。

第2巻 女性と犯罪

残忍性の女性犯罪者

母親——女家庭教師——一家の主婦——女君主——
奴隸使用者としての女性——女性政治犯人——

女性の残忍性の極端なことは——それに就ては、今我々が特に一章を設けてそれに充てようと思つてゐるのだが——今まで眞に女性らしいと云はれてゐる女性の代表者のうちに見慣れて来たところの靜肅、柔和、溫良などの特徴を全く矛盾してゐるやうに見えるため、非常に我々を驚かせるのである。この矛盾は、たゞ我々がもう一度、女性の根本の本質なるものを思ひ浮べてみる。即ち女性と云ふものは、動物や小兒を思はせる——どちらも善惡の彼岸にあつてそれを超越してゐる——やうな、その本能に依つて、善にも惡にも、導かれ易いと云ふことを知つた時、始めて解き明されるのである。

第5巻 犯罪者の心理

精神病と犯罪

一、犯罪と疾病

幾多の新犯罪は續出する。從來の犯罪も累加し、到底根絶する見込はない。生命の危険は常にある。財産の安固も期し難い。従つて『現代は神經衰弱を濫造する不安の犯罪時代である。』とまで觀ぜられるゝが、犯罪は果して社會的現象であらうか、その解決の如何は、犯罪問題に於ける犯罪心理の位地に影響する所がある筈である。

疾病の定義には困難がある。『健康の反對が疾病である』では、勿論疾病の定義として醫學的に承服出来るものではないが、『生理的法則から違背し（違背性）且つ生命に對して危険を招集し、（危険性）或は生命を障礙する（障礙性）現象が疾病である。』と定義すると、幾分疾病の輪廓をなすであらう。

勿論刑法學者が「廣義の犯罪」を「社會的法則風俗に違ひ（違背性）且つ社會の安寧秩序に危険